

令和7年度第2回鳴門市水道事業審議会 会議概要

開催日時：令和7年10月16日（木）10時00分から11時45分まで

開催場所：鳴門市水道会館3階第1会議室

出席者：審議会委員10名

【開発委員、川口委員、近藤委員、芝野委員、田村委員、原委員、細岡委員、
益岡委員、森委員、矢野委員】

鳴門市5名

【寺前参事兼水道事業課長、大和水道企画課長、事務局3名】

欠席者：審議会委員4名

【岡田委員、五島委員、中岸委員、森本委員】

開催次第

1 開会

2 議事

（1）鳴門市水道事業ビジョン2026（仮）の素案の概要説明について

（2）質疑・意見交換

3 その他

4 閉会

会議資料

開催次第

座席表

資料1 鳴門市水道事業ビジョン2026（仮）の素案

別紙1 収支見通し（素案の抜粋）

参考 水道事業の会計の仕組み

会議概要

議事（1）（2）について、資料1、別紙1、参考資料を用いて事務局より内容の説明を行い、質疑を行った。質疑の概要は別紙のとおり。

【別紙：質疑概要】

・議事（１）鳴門市水道事業ビジョン２０２６（仮）の素案の概要説明について

・議事（２）質疑・意見交換

（委員）

水道料金体系に工事用の料金が示されていないのでわかるようにしてはどうか。

おいしい水という表現が出てくるが、どういった意味か。安全な水といった表現の方がいいのではないか。

また、防災訓練の実施とあるが、水道工事業者が呼ばれていないが、どのように考えているのか。

（事務局）

水道料金体系の工事用については、特殊用が該当することになるが、表記については再考したい。

おいしい水については、残留塩素濃度と関係してくるが、水質基準とされる０．１mg/L以上を保持しつつ、この濃度が高くなると水にカルキ臭を与え、水の味を損なうことから、カルキ臭を感じないとされる０．４mg/L以下に抑える目標を掲げ水質管理を行っている。

防災訓練の共同実施については、地域の皆様や水道工事業者を含め、どのような内容で実施していくのか検討したいと考えている。

（委員）

徳島市では実施しているので、地域の関係者を巻き込んでやってもらいたい。

（副会長）

配水池の耐震化について、これまでの取組として、平成２８年度に中央配水池、中山配水池、木津接合井で耐震診断を行ったとあるが、その診断の結果について記されていないので、どういった状態だったのか、また、規制緩和等に向けた提言についても、要望を行った結果どうなったのかを伺いたい。

（事務局）

主要な配水池は、建築基準法が改正された昭和５６年以前の施設であるため、現行の耐震基準を満たしていない状況である。市内には１８箇所の配水池があるが、大谷配水池、平草配水池、桧配水池、島田島高区配水池の４箇所については耐震基準を満たしている。全体の容量に対しては、約２５％の耐震化しかできていない状況であるため、引き続き耐震診断を実施しながら、優先順位をつけて耐震化を推進したいと考えている。

規制緩和等に向けた提言については、浄水場事業開始前、共同浄水場整備事業に活用できる交付金の要件は3事業体が共同する要件であったが、北島町と2事業体でも活用できるよう県や国に要望を行い、現在も交付金を活用しながら共同浄水場を整備している状況である。このこと以外にも常に国の交付金を最大限活用できるよう、既設管撤去に係る交付対象条件の見直しや給水車の整備に係る補助金制度の拡充など、日本水道協会、県や市長会を通じて要望を行っている。

(委員)

自主防災会との防災訓練という話があったが、どこで、どのような訓練をされてきたのか伺いたい。

検針について、近隣の墓地で漏水が発生している際に、検針員の方に声をかけていただいたことがあった。こういった気遣いは大事だと感じるので今後もお願いしたい。

(事務局)

自主防災会との防災訓練の内容については、大谷配水池において、緊急遮断弁という設備があるが、この設備の操作について自主防災会の方と覚書等を交わしており、近年は、この設備の操作方法などについて訓練を行っている。

災害時には、広範囲における断水が想定されるため、市内各地の応急給水拠点にて、応急給水の方法など、地元の方や自主防災会、水道工事業者を含め、災害対策を実施したいと考えている。

(委員)

40年を超えている管路が40%以上あるということで、他の自治体より高い状況だと思うが、漏水の事故などはどれくらい起きているのか。また、基幹管路の耐震化率は、他の自治体より高い状況であり、国の補助率も低いといった状況もあると思うが、今後の計画について伺いたい。

検針について、今後スマートメーターの導入について動向があれば教えていただきたい。

(事務局)

老朽化管路については、昭和40年代、50年代に布設された管が多く、年間8億円をかけて布設替工事を行っている。法定耐用年数超過管路率は、令和5年度は46.5%、令和6年度は48.1%と増加傾向にある。また、基幹管路の耐震化率は38.8%であり、県内では上位に入るが、災害への備えを考えると、さらに上げていく必要があると考えている。本市の耐震化計画に基づき、引き続き整備を進めていく。

漏水事故の件数については、令和6年度の年間実績では、本管で32件、給水管で220件、計252件である。

スマートメーターの導入については、今後の具体的取組に掲げている内容である。コスト面や都市部との検針状況の違いを考えると、現状、本格導入は難しい。まずは実証実験を行うなど、調査、研究を進めるなかで導入を検討したいと考えている。

(委員)

おいしい水について、新浄水場では高度処理、オゾン処理、活性炭処理を計画されているのか。また、配水地の耐震化について、中央配水池までの管路、中央配水池の耐震化についてお願いしているところだが、更新金額はどれほどになるのか。

照明設備の LED 化について、鳴門病院でも全館の LED 化を進めている。電気料金の節約につながっているので、是非進めていただきたい。

(事務局)

浄水処理については、現行の浄水場と同じ工程となる。事業開始前にオゾン処理の導入を検討しているが、コスト面から導入には至っていない。高度処理の一環として粉末活性炭の注入があるが、新浄水場施設では、現行の施設より、よりきめ細やかな管理ができると考えている。

中央配水池の耐震化や木津中継ポンプ場から延びる送水管の更新は、優先順位が高いと考えている。配水池等の更新費用については、年間 3.3 億円程度の更新費用を見込んでいるが、水を貯える躯体工事が中心となるため、浄水場施設ほどの更新費用は想定していない。木津中継ポンプ場については、躯体に加えて、ポンプ施設等の整備も必要であることから、他の配水地より更新費用は高くなると見込んでいる。

照明設備の LED 化については、今年度から水道会館での導入を始めており、来年度は 3 階フロアを予定している。その他、照明設備がある施設については、改修等の機会に合わせて LED 設備を導入したいと考えている。

(委員)

収支見通しで示す料金収入は、行政区域内人口の予測に基づいて算出されているのか。事業用の水量や工業用の水量は考慮されていると思うが、事業所の減少や誘致などもシミュレーションしているのか。

(事務局)

水需要の推計や料金収入の見通しについては、近年の口径別の実績に基づき、将来の推計値を算出し、口径別に算出したものを合算している。人口の減少を、そのまま水量の減少としているものではなく、近年の口径別の実績から、その伸びを考えて推計したものになる。

(委員)

相当人口が減って、この収入になるということは、単価が随分上がることも予想されるので、その点、心配したところである。

(委員)

大きな災害があった場合、施設概略図で示す、主な送水管や配水管はどういった状態となるのか。今後の取組で示す、応急給水拠点の整備についても関連すると思うので、合わせて教えていただきたい。

(事務局)

施設概略図について、青い線が主な送水管、赤い線が主な配水管を示している。

緊急時には、大谷配水池や平草配水池では緊急遮断弁により、応急給水に必要な水を確保でき、同様の機能として、鳴門・大塚スポーツパークとうずしおふれあい公園では、緊急貯水槽があり、水道管との接続部分が遮断されることで、飲料水等を確保できるようになっている。

また、市内には18箇所の応急給水拠点があり、これらの拠点には、組立式の仮設タンクを設置し、給水車で運搬した水で給水活動を想定している。

(委員)

このような情報を市民に発信していかなければならないと感じる。

(事務局)

広報の重要性は感じており、災害への備えに関する情報発信や、災害時にはこういった情報が必要になるのか等、よりよい広報を検討していきたい。

(会長)

水道事業は、計画期間中である2032年に100周年を迎えることになる。これまで水道事業に携わってきた関係者の方々へ、感謝の意を伝えるなど、本水道ビジョンでの掲載を検討してはどうか。